

第5回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

日時：平成30年6月29日 19:00～
場所：原野谷中学校図書室

次 第

- | | | |
|---|--|-------------|
| 1 | 開 会 | 19:00 |
| 2 | 教育長あいさつ | 19:00～19:03 |
| 3 | 委員長あいさつ | 19:03～19:06 |
| 4 | 報告事項
(1) 第4回地域検討委員会について
(2) 原野谷学園保護者説明会について | 19:06～19:20 |
| 5 | 協議事項
(1) 原野谷学園における学校施設の方向性について | 19:20～20:25 |
| 6 | 連絡事項
(1) 今後の予定について
ア 地域検討委員会・地域意見交換会
・第2回地域意見交換会（予定） 平成30年8月24日（金） 19:00～
・第6回地域検討委員会 平成30年9月20日（木） 19:00～ | 20:25～20:30 |
| 7 | 閉 会 | 20:30 |

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 座席表

	校長	園長	原田地区まちづくり協議会長	学識経験者	市議会議員
	鈴木 政昭	村松 恵子	久米 正雄	山崎 保寿	草賀 章吉
(校長) 山田 卓				野口 安男 (市議会議員)	
(校長) 阪本 敦宏				山本 義弘 (子ども育成支援協議会長)	
(地域Co) 佐藤 收一				竹下 文博 (原谷地区まち協会会長)	
(あんり) 山本 千恵				山崎 潔 (原谷地区区長会長)	
(あんり) 古山 保味				両角 一夫 (原田地区前まち協会会長)	
(原田地区) 天野 唯				山田 珠一 (企業)	
(原谷地区) 鈴木 映美				山本 安幸 (企業)	
(原野谷中) 杉山 喜啓				深田 裕子 (原谷小)	
				鈴木 麻美 (原田小)	
	教育政策室長	学務課長	教育部長	教育長	企画政策課長
	学校教育課長				
	指導主事	教育政策室主任	教育政策室係長	教育政策室係長	学校教育課指導主事

施設タイプ別メリット・デメリット(第4回検討委員会GW)

	メリット	デメリット
施設一体型	<p>○小中一貫教育の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を推進しやすい。 ・新しい発想の教育、交流、特色ある教育がしやすい。 ・児童、生徒の教育環境充実が図られる。 ・上級生を見て日々の生活ができる為、新しいことへの抵抗が少なく、視野が広がっていく。 ・学年の区切りを考え、中学校1年生がリーダーとなるなど、意図的にリーダー性を養うことができる。 ・異質な集団を形成して、人間関係に刺激を与える。 <p>○児童生徒の交流が広がる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単学級ではなくなり、児童生徒の交流が増加する。 ・9年間同じ仲間と学ぶことができ、信頼関係が築ける。 ・他学年との交流がしやすいので、成長や思いやりが生まれる。 ・中学生と小学生の交流の場が多くなる。(社会性の育成) ・人間関係に悩んだ時に、近くに相談できる相手がいる。 ・小学生に見られていると思うと、中学生も頑張れる。 ・生徒、児童の数も増えるため、友達が今以上に広がっていく。 <p>○移動時間の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流や教員の移動時間がかからない。 <p>○新しい教科等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語やプログラミング教育など、教育内容の変化に対応しやすい。 ・一貫性のあるカリキュラムや指導方針を生みやすくなる。 <p>○中1ギャップの緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の交流が盛んになることや多くの教員の目があることによる中1ギャップの緩和が図られる。 <p>○教育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性を生かした授業により、質の向上が図られる。 <p>○地域の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい一体型の学校の魅力で、当地に転居する人々が増える。 ・9年間同じ場所へ通うことができる。 ・原谷地区と原田地区の交流がふえる。 ・運動会、文化祭等地域の人が、行きやすくなるのではないかな。 <p>○施設・コスト面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築費用が分離型よりも低くおさえられる。 ・施設の設置や維持管理が効率的で教育予算が節約できる。 ・静浦小中一貫校の様な素晴らしい教育環境を整えるべきだと思う。 	<p>○6年生のリーダーシップを発揮する場の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生がリーダー性を発揮しにくいのではないかな。 ・小学校高学年の活躍の場の減少が考えられる。 <p>○交流が広がることによる心配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1～中3まで一緒にいることにより、いじめが起こったときの対応が心配。 ・一体型の場合、小学校から中学校へ進学する際、気持ちの切り換えが難しいのではないかな。 ・ルールを守れない上級生や、思春期の男の子に対しての下級生への影響が心配。 ・上級生が下級生を甘やかすのではないかな。 <p>○施設の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎の配置など工夫がなければ、教育効果も減る。 ・発達段階に合わせた施設を考えることが重要である。 ・児童が安全に遊ぶ場所の確保が必要である。 ・原野谷中学校の土地を考えるなら、敷地面積が足りない。 <p>○施設・コスト面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得や校舎建設にかなりの費用がかかることが予想される。 ・施設一体型の校舎を建てる場所の確保。 ・運動場や体育館等、9学年分の十分な広さの確保。 ・校舎新築の予算確保が必要である。 <p>○学校の範囲の広がりによる登下校等の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学や家庭訪問の範囲が広がる。 ・通学時間が大幅に変わってくる。 ・小学生の通学の負担が増える。 ・登校時間や下校時間の変更 ・学校までの通学方法で、遠い子どもにとっては、通学バスで行っても大変。 <p>○学校内やPTA等の組織のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員やPTA組織等の在り方について考え直す必要がある。 <p>○中学進学への期待感等の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間、同じ校舎での教育となるため、進学への期待感が薄れる。 <p>○おらが学校への思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔からそれぞれの地域にあった学校がなくなってしまうことへの寂しさ。 <p>○部活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校だと部活動があるため、グラウンドの開放が容易ではない。 <p>○カリキュラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間の一貫カリキュラム作成が大変。
施設分離型	<p>○学校・学区の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い学校の歴史が維持される。 <p>○中学への進学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい場所や環境で勉強できる。 <p>○密な人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数により、より密接な人間関係を築くことができる。 <p>○教師が子どもの様子を把握しやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの変化に気付きやすい。 <p>○児童生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の段階における他学年への影響を受けにくい。 ・きめ細かい教育が受けられる。 ・子どもと教師の距離が近い。 ・常に小集団で学習する。 <p>○変わらぬ環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った校舎や環境が与えられる(現状)。 ・今まで通り地域とのつながりが強く、従来の地域で安心感がある。 <p>○通学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学距離は変わらない。送迎が徒歩で行える。 	<p>○現状・子どもの人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田小は複式学級になる可能性がある。 ・分離型では児童生徒数の先細りが進む。 <p>○教育活動の限定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数により、活動内容がせまくなる。 <p>○人間関係の固定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカーストを崩すのが難しい。 ・小学校から中学校への接続に関して中1ギャップが現状のままである。 <p>○コスト面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築費用が施設一体型よりも高くなる。 ・施設維持管理の効率が悪い。 <p>○交流活動の移手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の際、子どもたちや教職員が移動しなければならない。 ・交流を活発に行うには移手段が必要。 ・交流に時間がかかり、効率的ではない。 <p>○固定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単学級でクラス替えがなく、人間関係が固定化する。 ・学習集団に限られる。 ・小規模の為、複式学級になることも考えられる。 <p>○教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で全教科の教員をそろえられない。

新たな学園づくりを考えたときに必要な施設や要望(第4回検討委員会GW)

	施設・要望	理由
図書館	地域で活用できる図書館	地域の人でも利用でき、学校での世子供の様子も見られる。
地域コミュニティ	憩いの場	年齢に関係なく集まり話ができる場があると良い。
施設	人口増につながる施設	学校を建設しても、人が集まらないといけない。宅地が造成され、企業が集まることによりさらなる魅力のあるまちづくりが必要。新東名も生かしていきたい。
学園の在り方	持続可能な学園の在り方(学園の拡大)	学園の範囲を広げることも視野に入れる必要がある。例えば、原野谷川流域(和田岡、原谷、原田、(原泉))を大きな学園として考えることも良いのではないかと。

原野谷学園新たな学園づくり保護者説明会について（概要）

1 開催日時

こども広場あんり	平成30年5月1日（火）＜保護者10名、検討委員8名＞
	平成30年5月2日（水）＜保護者10名、検討委員4名＞
原谷小学校	平成30年5月19日（土）＜保護者10名、検討委員8名＞
原田小学校	平成30年5月19日（土）＜保護者3名、検討委員7名＞

2 保護者説明会での御意見について

(1) 小中一貫教育について

- ・小中一貫教育には賛成である。（あんり）
- ・中学校で会う子はあんりで一緒に生活してきた子であり、初めて会う子ではない。生き生きと生活をしている。宿泊訓練や陸上大会、きらりなど連携はできている。連携が一貫になってさらに交流が深まるとよい。近い場所に校舎がまとまっていた方が行き来がしやすくてよいのではないかと思う。（あんり保）
- ・中学校の先生が教えてくれるということで子どもたちが盛り上がっている部分はある。（原谷保）
- ・小中一貫になった時に、小学校から中学校に上がった段階で子どもが安心できると思う。知っている先生がいるというだけでも安心できる。（原谷保）
- ・一貫教育をどの程度までやるのかわからない。必要性がわからない。（あんり保）

(2) 施設形態について

ア 施設一体型賛成意見

- ・あんりのおかげで小学校、中学校の縦のつながりも強い。小中一貫教育は進めてほしいし、一体校になって交流を深めてほしいと思っている。（あんり保）
- ・一体校に賛成。原田に戻るつもりでいるが、原田の同学年の人数が少ないと聞いている。子どもは1学級あたり10人以下。原田幼稚園、原田小学校、原野谷中学校、そして高校と全て母校がなくなってしまうが、できれば早く進めてほしい。（あんり保）
- ・一体校は地域にとってチャンスであり、大きく宣伝してもらい、原田・原谷地区に人が移り住む様になると良い。（あんり保）
- ・一体校は賛成。西山に住んでいるが、一体校になったときの学校の場所や通学方法は心配。（あんり保）
- ・一貫教育、一体校は良いと思っている。細谷区に住んでいるので通学方法は心配。小学生と中学生と一緒に生活すると、小学生向けの遊具や中学生の部活用のグラウンドなどかなり広い敷地が必要になるのではないか。（あんり保）
- ・小学校同士の交流は大事だと思う。小中一体校になるのはよいことだと思う。何年後の話なのか。（あんり保）
- ・小学生と中学生と一緒にになるとグラウンドの使用について考えていく必要があると

思う。(あんり保)

- ・一体化に賛成。新しい学校が小さい子どもからお年寄りまで地域の人が集まるような場になるとよい。(原谷保)
- ・一体化に賛成。この話を知っている保護者が少ないことが問題ではないか。(原谷保)
- ・一体化に賛成。小中学校が一緒の校舎になるのは良いことか分からないが、小学校から中学校へスムーズに移れる環境づくりは必要だと思う。人と関わることは、実際に関わらないと学べない。必要なことだと思う。(原谷保)
- ・小中学校が隣接している学校で育った。フェンスで隔てられていたけれども、交流はあった。学校がなくなるよりは、一体化しても学校があった方がよいのではないかと思う。(原谷保)
- ・一体化に賛成。一体化するメリットは大きい。子どもたちが多くの人と関わり合うことが必要。(原谷保)
- ・小学校を統合することには賛成。あんりの子どもがみんな同じ学校に通えるとよい。もし、一体型にするのであれば、小・中でまったく違う文化を作って小中学校の区切りを作らないと、ただ集めるだけになってしまう。きちんと構想を作る必要があると思う。(原谷保)
- ・特別支援の子どもは、高校からは県立の特別支援学校に通っている。県立ということもあり、地域との交流がなくなってしまう。小中学校で揉まれた経験のない子どもが県立の特別支援学校で急に人数が増えて揉まれたとしても就職につながるか分からない。小中学校のうちに一体化して多くの人と関わることであればと思っている。そう言った点も考えていただければありがたい。(原谷保)

イ 隣接型・分離型賛成意見

- ・一体型のメリットはわかるが、デメリットがわからない。全部一緒になるよりは、少し距離があっても良いのではないか。(あんり保)
- ・小学校の統合には賛成。中学校が一緒になるのはどうか。小中は隣接か別の校舎がよいのではないかと思う。(原谷保)
- ・同じ建物にしてしまうことがいいのか分からないが、小中学校が近くにあるのがよいと思う。同年代の子が減っていて、3つとか4つ離れた子も遊んでいるが、中学校に上がると関係が切れてしまう。その関係をもう少し維持するという意味からも、小中学校が近くにあることは良いことではないかと思う。(原谷保)
- ・小学校の統合は賛成。統合には和田岡小も含めるべき。小中の一体化には反対。(原谷保)
- ・6年生が中学生になる時には大きく成長する。小中が一緒の校舎になってしまうことで、伸びるチャンスを奪ってしまうのではないか。隣接型がよいと思う。施設に小学校らしさ、中学校らしさがあった方が子どもたちは生き生きするはず。(原谷保)
- ・施設分離型がよいと思う。小学校は統合する。違う場所に通うことによってステップアップという意識が生まれる。中1ギャップを乗り越える力を付けることも

必要ではないか。(原谷保)

- ・一体化には反対。平島には子どもがたくさんいて、子どもの数が減っている実感はない。複式学級が悪いことだとは思わない。少人数の方が学校の先生の目が行き届いて子どもにとっては良い。学校を統合する必要はない。(原田保)
- ・原田小の人数が少ないのは気になっている。原谷小と一緒にすることはいいのかなと思っている。(あんり保)
- ・一貫教育は良いことだと思うが、やるのであれば原田小はなくさない方向で行って欲しい。幸い平島地域は若者が多い。原田地区のみんながここに住みたいと思えば先細ることはない。急いでやらなくてはいけない問題ではない。コストがかかって市の財政上、原田小が維持できないということであれば考えなくてはいけないが、今の状況が維持できるのであれば、そんなに困る話しではないと思う。(原田保)

ウ その他意見

(ア) 児童生徒数について

- ・学年の上の子たちを見ていると、一緒にやることはよいことだと思う。原谷小の親ももっと人数が増えて欲しいと思っている。2つの小学校が1つになる。小学校と中学校が1つになる、というだけでは人数は増えないのではないか。小学校と中学校と一緒にすることについては、賛成でも反対でもない。(あんり保)
- ・校舎の老朽化や少子化の問題など考えるのであれば和田岡小も入れないとだめだろう。原野谷中学校はそのうち統合されてしまうと思う。(あんり保)
- ・原谷地区の保護者の中には、桜が丘中学校と統合するのがよいのではという意見もある。原田地区の意見はどうか。原谷の南の方では大きい学校に統合を望む空気もある。その辺りも消化していかないとこの話しはきちんと前に進まないのではないかと思う。(原谷保)
- ・原田地区の子どもの数が減っているという話しは聞いている。原田小とは近い将来統合せざるを得ないだろうと思うが、学校が原田の方に行ってしまうと、原谷からはただ遠くなってしまっただけ。原谷に転居してきたいと考える人が減るのではないかと思う。(原谷保)
- ・仮に一体化したところで、説明にあったように子どもの数が減り続けたら、一体化した意味はすぐに失われてしまうのではないか。(原谷保)
- ・和田岡小を原野谷学園に取り込めば規模も大きくなるし、園から知っている子で安心なのではないか。和田岡小も統合の対象に入れたらどうか。(原谷保)

(イ) 計画について

- ・具体的な計画がなく、自分のものとして受け入れることができない人が多いのではないか。(あんり保)
- ・もっと多くの皆さんの意見を聞いた方がよいのではないか。(あんり保)
- ・方向性が白紙の状態であることを知らなかった。自分たちの意見が取り入れら

れて進めていくということがわかっていない。保護者が興味を持つきっかけを、最初は紙面でも何でも良いので。そういったきっかけを作った上で、もう一回こういう会を開けば気持ちも違ってくるのではないか。(あんり保)

- ・方針が未定で、わたしたちが色々な希望を出せると聞いて、すごく興味がわいてきた。(あんり保)
- ・もっとたくさんの保護者が来てくれていると思っていた。(あんり保)
- ・詳細な工程が示されないと危機感が湧かない。(あんり保)
- ・具体的な計画がないので何のための話し合いなのか分からない。(あんり保)
- ・保護者に危機感はない。学校で状況を伝えないと、保護者は分からない。

(ウ) 子どもや教職員について

- ・一体校になったとしても、ついていけずに置いて行かれてしまう子がでるのではないか。(あんり保)
- ・小中学生が一緒になると小学生が悪い中学生の影響を受けるのではないかと心配。(あんり保)
- ・一体型のデメリットとして中学生から小学生に悪い情報が伝わるのではないかと心配。(原谷保)
- ・先生の負担が増えるだけではないのか。学校の先生のケアが必要ではないか。(あんり保)

(エ) まちづくり

- ・まちづくりを考えるチャンスだと思う。杏林堂と提携を図るなど、ここでしかできないことを成功させたら良い。(あんり保)
- ・地域から学校が無くなれば、地域は先細りしていくしかない。地域を発展させるのであれば学校が無くなることはデメリットでしかない。子どもが減らないようにすることを考えなくてはいけない。原田の人数が増えればお医者さんも原田に来てくれるかもしれない。通院のためのバスもあるが、運転手が通院する側になるかもしれない。先細っていく不安が大きい。(原田保)

原野谷学園

新たな学園づくり地域検討委員会

だより No. 4

原野谷学園にふさわしい学校施設の在り方は「一体型」か「分離型」か

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会では、小中一貫教育を進める上で、原野谷学園にふさわしい学校施設の在り方についての検討がすすめられています。

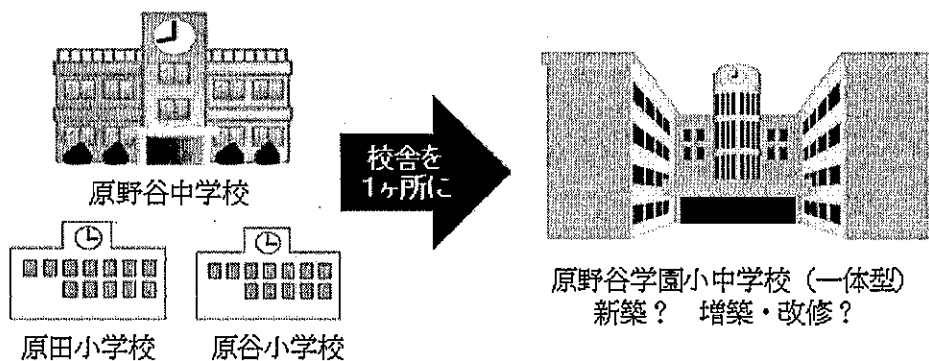
第3回（3月14日開催）、第4回（5月8日開催）の地域検討委員会では、学校施設の形態について研究を行いました。中でも小中学校の校舎を1ヶ所に集める施設一体型と、小中学校が分散している施設分離型について、それぞれのメリット、デメリット等について検討を行いました。

★検討に当たっての諸条件等

- (1) 少子化の影響で、各小中学校の児童生徒数は20年前と比べて約40%減少している。
- (2) 子どもを少人数学級に通わせることを心配して、原野谷地域以外に移ってしまう人もいる。
- (3) 中学校区学園化構想、小中一貫教育研究指定で行われている学園内の園・学校間の連携・交流が成果を上げている。
- (4) 学園内の各小中学校の建物の老朽化が進んでいる。建て替え・改修の検討を始めなくてはいけない。

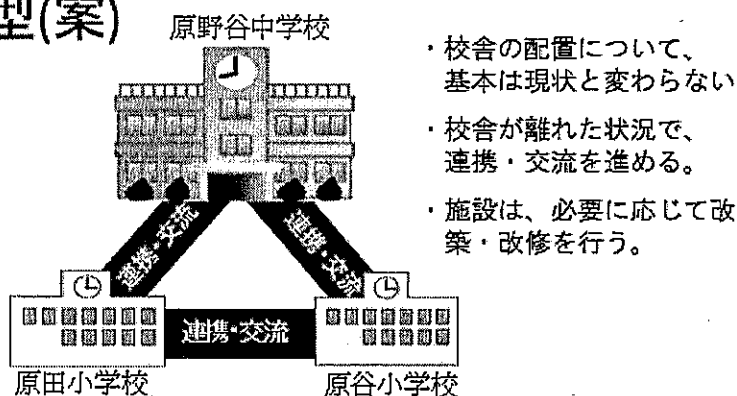
案①

●施設一体型(案)



案②

●施設分離型(案)



※ 地域検討委員会では、今年度中に学校施設の在り方の方向性を打ち出す予定です。

子ども広場あんり、原谷小・原田小の保護者説明会を開催しました

小中一貫教育と新たな学園づくりについて、子ども広場あんりと原谷小・原田小の保護者の皆様へ説明会を開催しました。保護者の皆様からは、小中一貫教育、学校施設の在り方について多くの御意見をいただきました。いただいた御意見は、地域検討委員会に報告をし、今後、学校施設の在り方を検討していく上で参考とさせていただきます。御参加いただきました皆様、ありがとうございました。



5月1日・2日（子ども広場あんり）



5月19日（原谷小・原田小）

※写真は原谷小保護者説明会

説明会で保護者の方からいただいた御意見

- ・原田小は統合せざるを得ないだろうと多くの保護者は考えている。統合ありきの話しだと思っていた。
- ・原谷地区の保護者の中には、桜が丘中と統合するのがよいのではという意見もある。
- ・一体校にする場合の学校の位置が分からないのが不安。
- ・一体校になったとしても人口が減り続けるのであれば、またすぐ統合を考えなくてはいけなくなるのではないかと。人口を増やすことを考えないといけない。
- ・一体校になって子どもや先生の交流が増えれば、小学生が中学校に上がる時に安心できると思う。
- ・あんりには和田岡の子も通っている。和田岡小も含めた検討をしたらどうか。
- ・一体校に地域施設が入って、新しい学校が小さい子からお年寄りまで集う場所になるとよい。
- ・一体校になって、子どもが多くの人と関わることができるようになるとよい。
- ・小学校の統合は賛成だが、中学校との一体化には反対。
- ・6年生が中学生になる時には、すごく成長する。小中間のギャップを乗り越える力を養うことも必要ではないか。小学校と中学校は別々にあった方がよい。
- ・統合は反対。少人数、複式学級は悪いことではない。学校がなくなれば地域は先細りするだけ。学校がなくなるのは地域にとってデメリットでしかない。
- ・子どもが少なくなるのを心配している親もいる。新しい学校がいつごろできるかで地区外に家を建てるか、地元に戻ってくるか悩んでいる保護者もいる。

第5回新たな学園づくり地域検討委員会の開催について

日時：平成30年6月29日（金） 午後7時から

場所：原野谷中学校 2階 図書室

御意見・御質問等ございましたら、
お寄せください。

発行・編集
掛川市教育委員会 教育政策室

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1

電話：0537-21-1109 FAX：0537-21-1229

E-mail: kyoikubu@city.kakgeawa.shizuoka.jp

